

# 大腸内視鏡検査

# 入院診療計画書

# 主治医（中山/黒崎/須郷）

## 『大腸内視鏡検査』とは・・・

日本でも生活、食習慣の変化により大腸がんが増加しています。

大腸内視鏡検査は、肛門から細い内視鏡を入れて、大腸粘膜の様子をモニターで観察します

何らかの病変を認められた場合は、細胞の一部を取ったり、ポリープを切除して、病理検査を行ない病気の判定をしています

約1日分、便秘の方で2～3日分の便がたまっているため、検査の前に腸の中を空にしなくてはなりません  
当日、20の下剤を飲み、腸の中をきれいに洗い流します  
便が残っていると、十分な観察ができません  
がんばって20飲みましょう

	入院前日まで	検査前	検査後	1日目 退院
月日			/	/
安静	自由	自由 検査は歩いていきます	検査後はストレッチャーでお迎えに行きます <b>トイレ歩行以外はベット上安静になります</b>	自由
清潔	前日の夜は入浴してください 	歯磨き・洗面は行ってください		入浴できます 
食事	夕食後より食事はとらないでください	朝起きたら何も食べないで下さい  水分は飲んでもかまいません (ジュースや牛乳などはやめてください)	検査後は水分は飲むことができます (水・お茶だけにしてください) 	朝からお食事ができます(お粥)
処置	寝る前に下剤をのんでください (ラクソベロン1本)	下剤を飲みます(ニフレック 2リットル) 2時間くらいかけて飲んで下さい 下剤を飲み終わっても、便にカスが残る場合は浣腸をする場合があります 便の状態は検査カードをお渡しして説明します  検査前に検査用のパンツにはき替えます		午前中、医師の診察があります
観察	便の形・色・量をみておいてください	入院したら血圧・体温をはかります  便の形・色を見ます 腸の中に便があると、カメラでのぞいた時、十分な観察ができません カスがなくなり、薄い黄色の水様便になるまで、 (検査カードの⑤)しっかり便を出しましょう ⑤になったら看護師が確認するので、トイレからお知らせください 	お腹の痛み・張りがなければ観察します 少しお腹の張り感はあるかもしれませんが、 痛みがでたり、出血した場合はすぐにお知らせください	お食事をして、お腹が痛くなる、張りが強い場合は すぐ食事をやめて、お知らせください  便が出たら、形・色を見てください 出血が多い場合はすぐにお知らせください
トイレ		自由	<b>トイレ歩行のみにしてください</b>	自由
検査	血液検査 レントゲン 心電図 	大腸内視鏡検査		
注射		点滴をします。  検査室へは点滴をしたらまきまき 	検査の後も点滴はしますが、終わり次第 点滴の針は抜きます	ありません
飲み薬	続けて飲んでください  医師に中止するよう指示があった場合は指示に従ってください 		検査後からは通常通り飲んでください	
患者さんとご家族への説明	検査に必要な物 バスタオル 1枚 (できるだけ無地のもの)  入院生活に必要なもの 洗面道具 湯のみ・ストロー はし・スプーンなど スリッパ	入院生活の説明をします  検査同意書、検査に必要な物をお預かりします  貴金属・時計・入れ歯ははずしてください マニキュアもとってください 貴重品はご家族に預けてください  検査室には歩いていきます。 10分前にはトイレをすませてください		退院おめでとうございます 次回の診察は 月 日です   診察券と退院証明書をお渡しします  <b>検査後は少し出血したり、血便がでることがあります 量が多い、おなかが痛い、張りが強い場合は すぐに外来を受診してください</b> アルコール、刺激物(炭酸飲料・香辛料など)は ひかえましょう